

第8回連続講座「『いのち』を考える」講師プロフィール

日程	講師（敬称略）	プロフィール
5/15 (金)	<p>松野 明美(まつの あけみ) 元オリンピックランナー、タレント、 熊本市議会議員</p> <p>【演題】 いちばんじゃなくて、いいんだね ～生まれてきてくれて、ありがとう～</p>	<p>駆け足が遅く、いじめられっ子でおとなしい性格だったが、小学校5年生のときに出場した町内陸上大会で優勝。1位でゴールしたときの両親の笑顔がうれしくて、マラソンに目覚め、「いちばんを目指す人生」が始まる。 1987年に初出場した全日本実業団対抗女子駅伝で12人をごぼう抜きし、一躍注目のランナーとなる。1988年、ソウルオリンピック1万メートル競技に出場。人の2倍、3倍、それでもだめなら4倍の猛練習をし、数々の記録を残す。 2002年に長男が誕生。翌年、次男がダウン症という障がいを持って生まれる。「明るく元気な松野明美」のイメージが崩れてはいけないと次男を一生隠そうと決心するが、日々の成長や笑顔が、著者の心を少しずつ変化させる。次男の子育てを通じて、「人生は人との競争じゃない、いちばんじゃなくてもいい」と気づかされる。著書に「いちばんじゃなくて、いいんだね。」</p>
5/22 (金)	<p>小澤 竹俊(おざわ たけとし) 医師、在宅ホスピス専門医</p> <p>【演題】 緩和ケアから学ぶ“いのちの授業” ～ 痛み・悲しみから学ぶ自尊感情・ 自己肯定感～</p>	<p>世の中で一番苦しんでいる人のために働きたいと願い、医師を志す。1987年東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業。1991年山形大学大学院医学研究科医学専攻博士課程修了。救命救急センター、農村医療に従事した後、94年より横浜聖生病院内科・ホスピス勤務。1996年にはホスピス病棟長となる。2006年めぐみ在宅クリニックを開院、院長として現在に至る。 「自分がホスピスで学んだことを伝えたい」との思いから、2000年より学校を中心に「いのちの授業」を展開。一般向けの講演も数多く行い、「ホスピスマインドの伝道師」として精力的な活動を続けてきた。 2013年より、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクトを開始し、多死時代にむけた人材育成に取り組んでいる。 著書に、「小澤竹俊の緩和ケア読本 苦しむ人と向き合うすべての人へ」「医療者のための実践スピリチュアルケア 苦しむ患者さんから逃げない!」「いのちはなぜ大切なのか」他</p>
5/29 (金)	<p>山下 京子(やました きょうこ) 「彩花へ 生きる力をありがとう」著者</p> <p>【演題】 「彩花がおしえてくれた幸福(しあわせ) ～ 絶望の中に希望を拓くとき～」</p>	<p>1997年 神戸連続児童殺傷事件で長女・彩花さんを亡くす。 1997年 1冊目の手記「彩花へ『生きる力』をありがとう」を上梓 1998年 2冊目の手記「彩花へふたたび あなたがいてくれるから」を上梓 1999年 アメリカの犯罪被害者遺族の生き方に感銘し、POMC(Parents of Murdered Children)(子どもを殺された親の会)の慰霊祭に東洋人として初めて参加。このときの出会いが、こんにちの講演や寄付活動の原点となる。 2000年 乳がんを発病する。 2003年 3冊目の手記「彩花がおしえてくれた幸福(しあわせ)」を上梓 2005年 乳がん再発転移 闘病を経て現在に至る。</p>
6/ 5 (金)	<p>小寺 洋一(こでら よういち) 臨床心理士、スクールカウンセラー</p> <p>【演題】 やってみて力を出し合って</p>	<p>1992年 立命館大学に在学中の21歳のときに、大学で化学の研究中に事故でけが。 1993年 7月には両目とも失明。 1993～95年 京都ライトハウスで生活訓練、盲学校で受験勉強。 1998年 甲南大学入学、心理学を専攻。 2004年 臨床心理士資格取得(全盲では初) 現在は、京都市スクールカウンセラー、京都ライトハウスピアカウンセラー、京都府視覚障害者協会理事。 著書に「白い杖のひとり旅 ニューゼaland手探り紀行」</p>
6/12 (金)	<p>家田 莊子(いえだ しょうこ) 作家、高野山真言宗僧侶</p> <p>【演題】 この世に生まれ、生きて、生かされて ～あと一歩前へ踏み出したいあなたへ～</p>	<p>日本大学芸術学部放送学科卒業、高野山大学大学院修士課程修了。 女優、OLなど十以上の職歴を経て作家に。1991年、「私を抱いてそしてキスして エイズ患者と過ごした一年の壮絶記録」で大宅壮一ノンフィクション賞受賞。 2007年、高野山大学にて伝法(でんぼう)灌頂(かんじょう)を受け、僧侶に。住職の資格を持つ。高野山の奥の院、または総本山金剛峯寺に駐在(不定期)し、法話を行っている。 著作に「極道の妻たち」®、「四国八十八ヵ所つなぎ遍路」「少女は、闇を抜けて 女子少年院・榛名女子学園」など。</p>
6/19 (金)	<p>岩崎 順子(いわさき じゅんこ) いのちの講演家</p> <p>【演題】 五感で受け継がれるいのち ～ 父親のおなかの上で遊ぶ～</p>	<p>和歌山県在住。公益財団法人和歌山県人権啓発センター講師。グリーンケア・緩和ケアなどに関わりながら「いのち・人権・心・子ども・親子・高齢者・生と死」など、いろいろなテーマについて全国で講演をする。 著書に「ガンが病気じゃなくなったとき」</p>